

岡山県議会議員

太田まさたか

おおた



プロフィール

昭和39年生まれ 56歳
《役職歴》土木委員会委員長、農林水産委員会委員長
総務委員会委員長、県監査委員
《選挙区》岡山市北区・加賀郡

県政だより 令和3年 新春号 VOL.44

編集責任者:太田正孝 岡山市北区延友455 TEL.(086)201-5523

元気の出る県政を!!

新春を心よりお慶び申し上げます。私の議員活動に対しまして、温かいご理解ご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

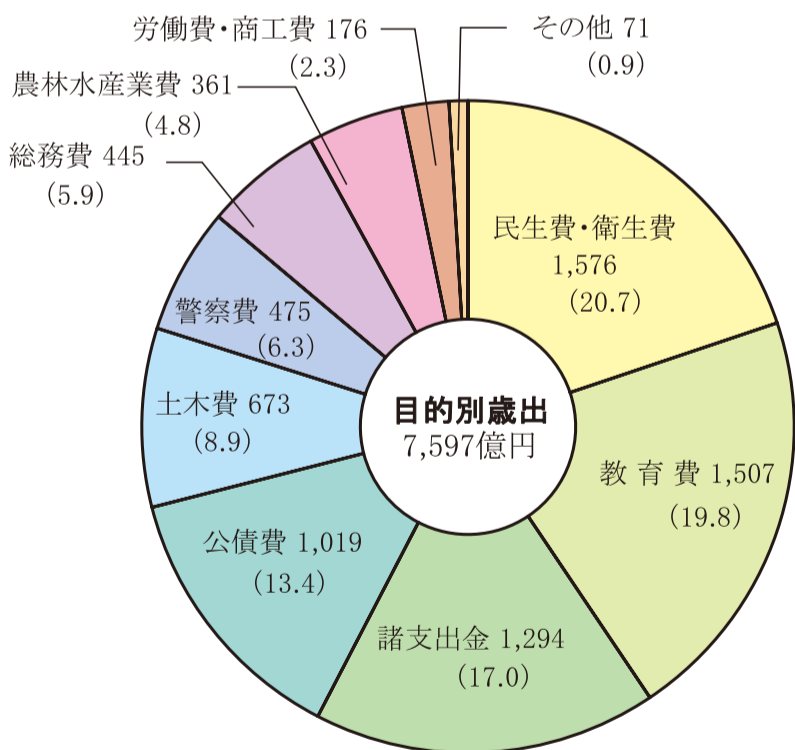
去年は新型コロナウイルスと如何に向き合うのか、模索し続けた一年であり、年末に、感染者が急増し、知事より、「岡山県医療非常事態宣言」が発令されました。岡山県にとって、私たちにあって、とても厳しい一年でしたので、この知事の宣言発令翌日の十一月定例県議会閉会時の挨拶の内容に注目をしておりました。知事から、「強い危機感を持って医療体制の崩壊を防ぎ、県民の命を守る取り組みを進める」と決意の言葉がありました。

令されました。そして、隣県の広島市は、緊急事態が発令されている所と同レベルの状況となっております。感染拡大の速度が第一波や第二波の時と全く違います。本県においても同じです。毎日の陽性反応者が高止まりで、国の目安のステージ4に近づいています。もう余裕はありません。この状況に対して、知事から県内経済六団体に感染拡大防止の取組への協力要請がなされました。ここで県民が一丸になってこの状況を更に悪化させないことが大切です。私は、県民に必要な情報を、分かりやすく、タイムリーに伝えることを県当局に繰り返し要望しています。

その「必要な情報」とは、どういうものなのか、私の考えを申し上げます。これまでに職場やカラオケ等で起きたクラスターを検証すると、最初に陽性反応が確認されたからの初期の動きが鈍くて、感染を拡大させてしまったところもありました。基本は、初めに確認されたら、直ぐ周りの方の検査をし、検査結果に基づいて、陽性反応者は隔離していくことです。こうした一連の動きを知っていたらどうでしょう、また、その一連の基本の動きがスムーズに出来るように、「感染者数」中心の発表から、県民の行動に繋がる情報発信に変えていくべきと考えています。

令和3年度当初予算要求額(一般会計)

(単位:億円, %)



※各項目は億円未満の金額を四捨五入しているため、合計額と合わないことがある。

引用:岡山県ホームページ



岡山県議会議員 太田 正孝

いくことができるように、これからの政治の舵取りは重要です。一瞬、一瞬の判断を見誤ることは許されません。県民の生命を守り、岡山県の発展の為に、元気の出る政治を行います。今年一年が皆様にとりまして良き一年になりますことを心からお祈り申し上げます。

県庁は耐震化工事中です

県庁本庁舎は約一六九億円をかけて耐震化が行われています。また、非常用電源を地下から高い所に上げる工事も進められています。全ての工事の終了予定は令和六年三月です。しばらくの間、県庁を利用する方には大変ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご理解を下さいますようお願い致します。



県庁内の補強工事を終えた箇所

新型コロナウイルス感染症に関して

感染経路は？

一人から複数の方に感染を広げているケースがありますが、どういった経路で感染が広がったのかを保健福祉部長に訊ねました。

部長からは職場内で感染したケースが報告されました。その報告によれば、勤務中ではなく、昼食時に閉め切った部屋で歓談をしていたために職場から家庭に広がったとのことでした。

昼食時、休憩時に感染することが多く報告されていますので、皆様も気を付けて下さい。

病床の位置づけに 踏み込んで訊きました

現在三百二床を確保しているなかで、「すぐに使える即応病床」と「確保している準備病床」の

それぞれの数を訊きました。即応病床は、七月の時点で七十床でしたが、この度の答弁では二百六十二床に増えています。また、準備病床は四十床とのこと。そして、最近の急増を受けて、医療機関に受入る、床の追加要請を行ったところ、複数の医療機関から前向きな回答をいただいているとのことでした。

(※令和三年一月二十二日現在、四百一床となっております。)

自宅療養が多いのは 何故か？

四十名の方が自宅療養している時がありましたので、どうして多いのか、訊いたら、基本は隔離であるが、岡山市で自宅療養が多く、その理由は、乳幼児がいるなどやむを得ないものであるとの回答がありました。

二重行政は あるのか、ないのか？

この問題をどうして、取り上げたのかという点、全国紙は、大阪の都構想の住民投票の結果を受けて、大阪府・市を除く全国の政令市長と政令市がある道府県知事の計三十三人に都市制度に関して質問を行い、その中で、岡山県・岡山市の両トップは二重行政の存在が「新型コロナウイルス対応や産業政策の役割分担」であると答えていたからです。

私は、単刀直入に、「新型コロナウイルス対応で、どんな点が二重行政になっているのか」と質問。保健福祉部長は、「業務の重複はない」と答弁でありました。

新型コロナウイルスに関して、業務の重複はないのかもしれないが、連携はどうかと感じる所が多くあります。改善のために、県議会です、これからも取り上げていきます。

政策目標の変更について

六月定例県議会で、「政策目標を、死者を出さないこととして、第一波を乗り越えることができたことについて、重症化させなかった理由とクラスターが発生しなかった理由はどこにあったのか」を当時の保健福祉部長にストレートに訊ねた時の回答は次の通りでした。

「重症化の防止については、患者の症状に合わせた入院医療機関の調整などを行ってきたが、医療関係者の御尽力によるところが大きいと考えている。また、

クラスターについては、県民の皆様をはじめ、事業者や施設関係者の御協力により、防ぐことができたものと考えている。」

こうしたことを踏まえて、「現状をどう分析しているのか」ということと「犠牲者を出さないこと」という政策目標を、今後どこに置くのかということの二点を保健福祉部長に訊ねました。

前者については、「油断を許さない状況」と答弁され、後者については、「これ以上の死者を出さないように感染防止対策と医療体制強化にしっかりと取り組んでいく」との答弁でした。

医療従事者等への慰労金 (予算額約五十五億五千万円)の支給状況は？

医療従事者への慰労金支給と併せて病床確保事業補助金(予算額約三十六億八千万円)の支給状況は？

前問同様に訊くと、七月までの実績分については、支給は全て完了して、現在、十一月実績までの交付申請手続きを行っているとのことでした。報告を聞いて、安心しました。

新型コロナウイルス感染症に対する広報について

気を緩める場所・場面は、職場では「休憩所」「更衣室」「食堂」であり、外出時では「飲食店」「コンビニ」「会食」「カラオケ」「コンサート」「スポーツ観戦」などであり、ここで感染が広がっていることが、各地から報告されています。岡山県内では、カラオケによる感染が広がっています。こうした現状から、私は、行政から、誰でも出来る感染防止の取組みを、もっと分かり易く、呼びかけは出来ないものかと考え、「行政から、誰でも出来る取組みを、もっと分かり易く、呼びかけて欲しい。また、その情報を含めコロナ関連の情報は随時ホームページに掲載されているが、特に感染防止対策については、写真や絵などを活用し、見ての方に伝わり易い情報発信をすべきではないか」と質問。

県当局からは、基本通りの答えが返ってきましたので、もっと踏み込んだ答弁が欲しいと思ひ、提案を含んだ再質問をしました。

その内容は、「子宮頸がんの予防策」について、岡山県のホームページでVチューバーによる分かり易い説明がなされている



11月定例県議会を振り返って

12月8日に登壇して、新型コロナウイルス感染症のことを中心に一問一答形式で質問を行いました。主なやりとりをご報告致します。

一月)のアンケートでデジタル化やデジタル人材の育成に取り組みたいとしている企業が多くあることを知ったので、デジタル人材育成の問題を取り上げました。

(※左表「五回目、七回目の調査でのデジタル化に関する質問への回答の結果」を参照)

産業労働部長から、養成コースを設けて、取り組んでいるとのことでした。

このコースについて、質問終了後に、問い合わせをすると、県の高専技術専門校でコースが開かれているのではなく、こうした人材育成をしている民間に委託をしているとのことでした。何もかも県がすることはできませんから、民間の力をお借りしてやることは大いに結構だと思います。

このコースを修了するには、六百時間弱かかります。かなりのボリュームです。

防災対策

残土処分場について

平成三十年の七月豪雨災害以降の一年間で、ストックヤードや残土処分場等を八カ所、また、公衆による民間受け入れ先五カ所を確保されましたが、その後の確保状況並びに今後の見込を報告して欲しいと質問。

土木部長から、その後、残土処分場二十二箇所、公募による民間受け入れ先六箇所を確保でき、現在三十六箇所において、残土の受け入れが完了しているとの答弁でした。また、今後の見込みについては、現在、八箇所の新規残土処分場について、市町と協議をしているところと報告がありました。

この質問をした背景を少しお伝えします。旭川御津地区から建部地区にかけての広範囲に亘り、更に、新庄川、宇甘川、三谷川等の支川について、土木部長が頑張っておられる中、重要箇所にも係わらず、中々要望箇所が減らないのです。その原因の一つは、この旭川水系で掘削された土は吉備中央町の約三十km離れた所を中心に掘削された土砂が運ばれていることにあります。ここに行くには片道約四十分、ダンピングは一日に三回程度しか運べません。もっと近くに受入箇所があれば、二、三回の回数が行けるはずであります。またそのダンピングも確保し難い状況が続きましたので、運搬もまま

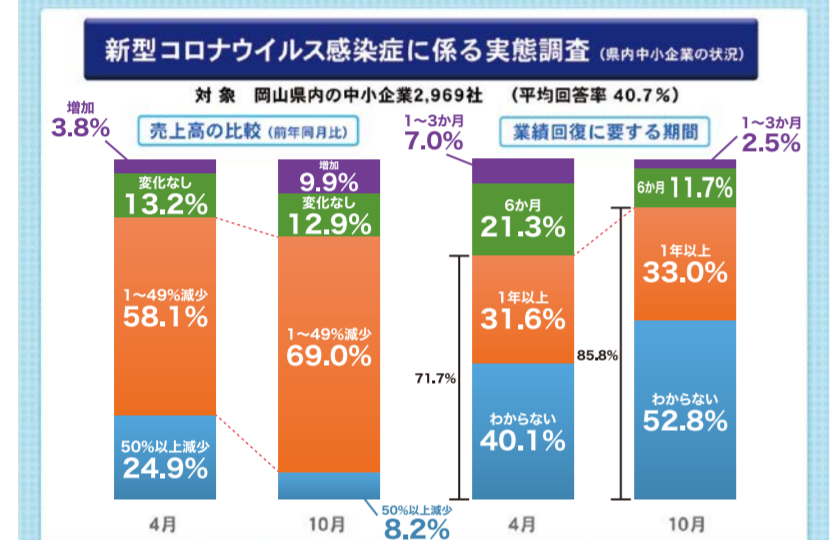
河川整備計画について

私は「旭川水系中流ブロック河川整備計画」と「足守川整備計画」について質問をしました。前者については、平成三十年七月豪雨の被災状況も踏まえ、現在、流下能力の確認や整備目標・内容の見直しをしているところであるとの回答でした。

後者については、笹ヶ瀬川合流点から撫川橋までの区間について重点的に行っている、撫川橋上流については、整備中間の完了時期を見据えながら、策定していきたいとの答弁でした。

5回目、7回目の調査でのデジタル化に関する質問への回答の結果

項目	5回目	7回目
オンライン商談の活用	323社	198社
ECサイトの活用	157社	115社
テレワークの導入	171社	325社 (オンライン会議等のリモート設備導入も含む)
デジタル化の推進	237社	調査なし
デジタル人材の育成	調査なし	96社





てくてくまさたか

バイオマス発電所

(新見市)

十月二十八日



工場跡地を上手く活用して稼働していました。

児島湖一掃清掃

十一月一日



新型コロナウイルスの感染に注意しながら、規模を小さくして行われました。

最新製造工場を視察

(西大寺)

十一月二日



部品管理庫を見せて頂くと、部品棚がコンピュータ管理されていて、重い棚もポタン一つで動き、欲しい部品を直ぐに取り出せるようになっていました。

西バイパス現場視察

十一月九日



西バイパス現場を逢沢代議士、国道事務所の職員、地元町内会の方々と視察しました。渋滞している交差点が立体化することになります。

造山古墳の埴輪列

十一月二十九日



日本原駐屯地 創設五十五周年記念行事

十一月二十九日



テレビ討論会

(RSKイノベイティブ・メディアセンター)

十二月二十二日



「岡山県議会リポート 十一月定例岡山県議会を振り返って」に出演しました。番組は十二月二十九日に放送されました。



高病原性鳥インフルエンザへの対応を見て

新型コロナウイルス感染症を担当する保健福祉部への他部局からの応援職員は現在十六人となっていて、来年度の定数は現在の他部局の職員十六人も含めて、更に積み増しをすべきではないかと申し上げた矢先、この高病原性鳥インフルエンザの発生です。六十四万羽の処分が求められました。十二月十一日の岡山県議会一般質問終了後、

農林水産部に用事があつて、足を運ぶと、この課も空席が目立ちました。みんな、鳥インフルエンザの対応に当たっているのです。これは農林水産部だけではありません。どこの部も応援に入っています。休日も返上して、現地等に入りま

す。こうした危機の時に、しっかり組織対応をしています。そのことは皆様に報告をしたいと思えます。ただ、度重なる危機に

対して、県庁が余裕を失くしてしまっていることを感じずにはいられません。このコロナ禍のなかで、疲れを溜め込んでい

る部分も多くあります。そうでありながら、愚痴も出さずに、頑張り続けていました。そして、昨年十二月二十二日午前十一時三十分、焼却処分まで完了しました。そして、新年になり、一月八日午前〇時に移動制限の解除も行われました。

今回、指揮する方は、自分の疲れなどは口に出さずに、この複合的危機を乗り越えられるような

布陣を整えて、働きやすい環境を作っておられました。立派な方です。こうした他の部や組織でも、危機に負けない体制を平素から準備することが大事です。県議会から県当局にこのことを訴え続けて行きます。

編集後記

現在、グローバル化、資本の巨大化、都市への人口集中、ネット社会(情報通信の発達)へ進む中で、規模の拡大こそ正義という風潮の強まりにより、孔子が論語で説く「仁」が吹き飛ばされて、どこかに行ってしまったと感じることが多くなっています。どうか。

ところが、昨年一年間の巣ごもり生活で、人と人の本来の関係を取り戻すことができつつあると感じています。今年、今まで出来なかったこと、今だからこそ出来ることをもって、人生を豊かにしていきたいと願っています。

(M・O)